

銀座街づくり会議

http://www.ginza-machidukuri.jp

〒104-0061 中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

*メール配信をご希望の方はお知らせください*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています*本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます*

7月9日、紙パルプ会館銀座フェニックスプラザにて、2017年度・銀座街づくり会議の活動報告会を開催しました。主な内容は、1) 2017年度の活動報告+2018年の活動計画について、2) 銀座デザイン協議会 デザインレビュー、3) 都市の均質化と銀座の未来、の3つです。

谷澤信一評議会議長の挨拶に始まり、事務局長・竹沢えり子より活動報告と活動計画について、小林博人さん（慶應義塾大学教授）のデザインレビュー、蓼原敬さん（都市プランナー）小林博人さん、中島直人さん（東京大学大学院准教授）、安西慶祐さん（銀座大黒屋）のパネルディスカッションがありました。



「銀座街づくり会議」：報告会

世界の中の銀座 - 都市の均質化と銀座の未来 + デザインレビュー2017



2017年度の活動報告

2017年度は、①交通、②三原橋工事、③銀座にふさわしい宿泊施設、④地区計画変更、⑤路上喫煙・吸い殻のポイ捨てへの対応、⑥財源確保を大きなテーマとして取組んできました。

2017年2月から、「地区計画『銀座ルール』」の変更について議論が始まりました。A地区（主に昭和通りから西側）では、従来の商業用途に加え、ホテルの誘導をはかるためにホテル用途に対する容積緩和、そしてB地区（主に昭和通りから東側）は、住宅の誘導用途を廃止する方向です。現在、多様な意見を聞きながら、銀座の将来像を想像しながら慎重に議論を進めているところです。

また、交通課題については、銀座5-8丁目西側地区の夜間の交通ルール緩和に向けて議論しています。このエリアでは、平日22-25時まで「車両進入禁止」と「タクシー乗り入れ禁止」のルールがかかっています。2017年度は勉強会や、関係各所へのヒアリングを行いました。さらに2018年度は、多様なお客様にやさしい街として現状に合ったルール改正を行政やタクシー業界関係者に要望していきます。

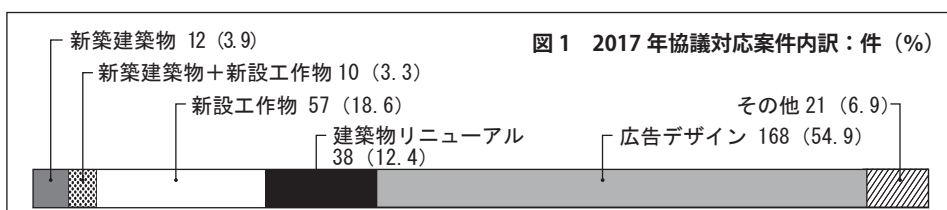
銀座デザイン協議会 デザインレビュー

2017年度、銀座デザイン協議会では306件の協議に対応しました。設立から12年目を迎え、これまでに対応した件数は2,179件になりました。

「銀座デザインルール」では、数値や色彩を決めていません。銀座は、固定的なルールでデザイナーの創造性を制限するのではなく、新しい挑戦を受け止められる寛容で柔軟な街でありたいと考えています。編集集中の「銀座デザインルール 第三版」もその思いをわかりやすく、事業関係者間で共有しやすくなるように心がけて編集を行っています。

世界の中の銀座 - 都市の均質化と銀座の未来

グローバル経済によって都市が世界に開かれる一方



で、世界の都市にはグローバルブランドが並び、同じファサード・広告が展開されています。このように世界の都市が均質化する中で、銀座はどのように存在感を発揮することができるのか、小林さんから問題提起がありました。

蓼原さんは、「銀座は日本にとっても世界にとっても特別な街である。その理由は、街の空間だけではなく、商売の仕方や街の空気が都市の風景に浸み出している」ためだと語ります。さらに、銀座を愛するお客様、そして銀座の人々の心意気と文化的な素養によって守られてきた暗黙の了解である「銀座フィルター」を世界に向かって押し通すべきであると強い期待を込められました。

次に中島さんは、都市の楽しさは目抜き通りだけでなく、それぞれの通りや路地を含めた面的な広がりがあると語ります。その上で、銀座通りが銀座らしさの象徴である一方、「銀座全体の面的な多様性が均質化してしまわないように、銀座で商売する人たち自身が多様性を持ち続けなくてはならない」ことを指摘しました。

江戸時代から銀座で商売される安西さんは、「中国からのお客様の質が急激に変化し、銀座の価値を理解してきている」としたうえで、競争が激しい銀座で商売を続けていくために残された道は、自分自身のこだわりしかないと言います。自分が好きか嫌い、お客様が何を求めているのか。培ってきた自分の感性を信じて店をつくり、商品を選ぶことがとても大事だと商売への誠実な姿勢を示されました。さらに、「街の方針やさまざまな議論を商売や店の規模に関わらずフラットに議論できる銀座は、非常に貴重な環境である」と締めくくりました。